

内田洋行、福岡教育大学と未来型 ICT 学習環境の活用に向け、 包括連携協定を締結

～附属学校 3 拠点に「フューチャークラスルーム」を導入～

株式会社内田洋行(本社:東京都中央区、代表取締役社長:大久保 昇 以下、内田洋行)は、国立大学法人福岡教育大学(学長:飯田 慎司 以下、福岡教育大学)と、包括連携協定を締結しました。締結式は、2025 年 9 月 3 日(水)に福岡教育大学附属福岡小・中学校にて開催されました。



左から 福岡教育大学 学長 飯田 慎司 氏
(株)内田洋行 代表取締役社長 大久保 昇 氏

本協定は、ICT を活用した未来志向の教育環境の構築および、地域に根ざした持続可能な学びの創出を目的とするものです。具体的には、福岡教育大学附属学校の福岡・小倉・久留米の 3 拠点(附属小・中学校)に一斉整備された未来の学習空間「フューチャークラスルーム(※1)」を拠点に、教育環境の実証・検証・改善に継続的に取り組んでまいります。本取組みは、ICT が欠かせない未来型の授業開発を推進する拠点であり、次世代の教員育成のための共同研究を進める場としても重要な役割を担います。また、内田洋行はこれまで培ってきた NEXT GIGA の端末整備、学習ダッシュボードの設計の構築など、多面的な教育 ICT 支援の実績を活かし、本協定を通じて教育現場の変革を強力に後押ししていきます。

包括連携協定の背景と目的

福岡教育大学においては、Society 5.0 の進展や地域社会の持続可能性といった社会的要請を背景に、最新の教育テクノロジーを積極的に活用し、新たな教育方法や学習スタイルを提案することを目指しています。

その中核を担うのが、2025 年 4 月に附属福岡・小倉・久留米の 3 拠点に設置されたフューチャークラスルームです。教室空間と ICT を融合した未来の学びの場として、ハイフレックス型授業や協働的・創造的な学習を可能

にし、教員養成や研修の実践基盤としての活用を予定しています。このため、教室空間、ICT、学習データ、ICT人材育成といった多様な領域を一体的に支援できるパートナーとして内田洋行が選定され、福岡教育大学と包括連携協定の締結に至りました。

本協定では、以下の内容において、産学の知見を結集し、教育イノベーションの共創を図ります。

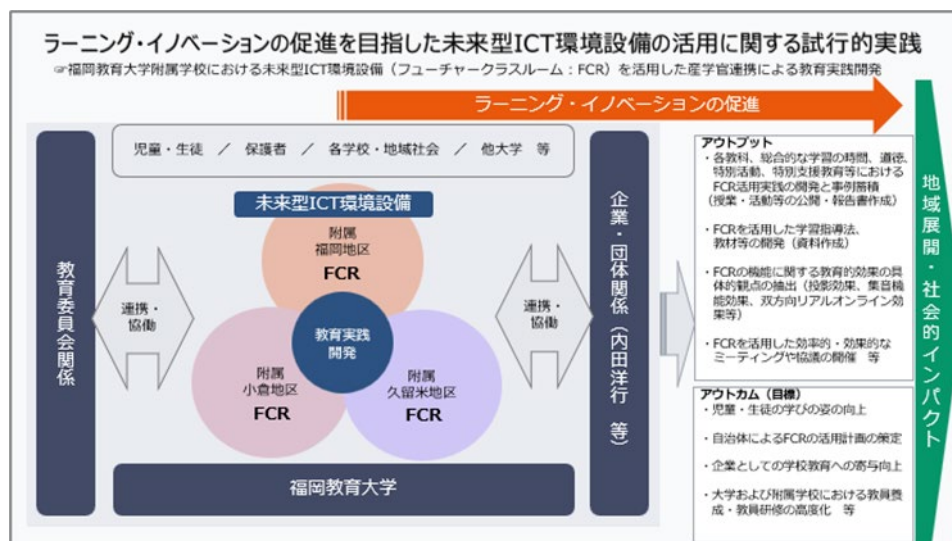
■包括事業連携協定の内容

- (1) 学校教育における効果的な学習環境及び指導の在り方に関すること
- (2) 他の教育機関、行政機関との連携に関すること
- (3) 人材育成及び人材交流に関すること
- (4) その他両者が必要と認める事項

「未来の学びの場」、附属 3 拠点で本格運用へ

■産学官連携による「ラーニング・イノベーションの促進を目指した未来型 ICT 環境設備の活用に関する試行的実践プロジェクト」

福岡教育大学では、附属学校 3 拠点においてフューチャークラស់ルームを活用した学習指導方法の開発と実践および検証を目的とした、「ラーニング・イノベーションの促進を目指した未来型 ICT 環境設備の活用に関する試行的実践」の取り組みを進めています。本プロジェクトでは、フューチャークラស់ルームの活用実践を段階的に深め、教育の質を高めることを目的としております。



ラーニング・イノベーションの促進を目指した未来型 ICT 環境設備の活用に関する試行的実践プロジェクト（案）

内田洋行教育総合研究所は、福岡・小倉・久留米の 3 拠点の各教室を活用した実践事例の創出や教育効果の検証等を行います。

地域の教育委員会や大学と一体となって取り組みを進め、3 拠点を接続したネットワーク型授業や地域の社会教育機関との連携を視野に入れながら、継続的な改善を図ります。さらに、活用モデルを体系化し、教育委員会や産業界とも連携して成果を発信していきます。

■協働的な学びと教育 DX を支える「未来の教室」

福岡・小倉・久留米の各附属学校では、協働活動、データ提示、リアルタイム接続などを可能にするフューチャー classrooms の活用を始めています。福岡教育大学との連携により、学びのイノベーションのさらなる加速を目指していきます。



福岡教育大学附属福岡小学校・中学校



福岡教育大学附属久留米小学校・中学校



福岡教育大学附属小倉小学校・中学校

Future Class Room.

これまで培った教育 ICT の成果をさらに発展へ

内田洋行と福岡教育大学は、下記のような実績があります。

■福岡教育大学附属福岡小学校の児童の学びを可視化する学習ダッシュボードの設計・構築

2024 年 6 月、内田洋行は福岡教育大学附属福岡小学校において、教育ダッシュボード「マイ・カリキュラム」を構築し、運用を開始しました。5 年生以上の児童が活用しており、自らの学びを記録・振り返るなど「見える化」を通じて、主体的な学習を促しています。今後は、学習傾向の可視化や指導改善への活用が予定されており、児童と教員の双方にとって、学びの循環を支える基盤として期待されており、近隣自治体をはじめとした地域の標準プラットフォームとなることが期待されています。

福岡教育大学附属福岡小学校様
新たな領域の学び(チャレンジ・テーマ探究・生活創造活動)での子どもの振り返り支援

Google Cloud + Looker Studio

Googleのクラウド基盤を用いたデータ基盤を整備し、児童生徒の学びの振り返りを通じた自律性・協働性・創造性の育成に取り組んでいます。

データ

- ・学籍情報
- ・教科・単元情報
- ・児童生徒向けの振り返りアンケート結果(教科の学び用と領域の学び用の2種)
- ・授業で目指したこと、達成度、できたこと、生かされたこと、次にむけた予定や目標など

福岡小学校「マイ・カリキュラム」



- 子ども自身の振り返りによる自律性育成
- 他者の視点の把握・共有による協働性育成
- 他者の視点や知識をつなげる創造性育成

福岡教育大学附属福岡小学校「マイ・カリキュラム」



■NEXT GIGA の教育 ICT 基盤を刷新

GIGA スクール構想第 2 期(NEXT GIGA)に基づき、内田洋行では附属福岡小・中学校、同小倉小・中学校、同久留米中学校に端末総台数 2,175 台の利用環境の設計構築、およびプロジェクトマネジメントを請け負いました。2025 年 4 月より Google 社の Chromebook^(※2)、Apple^(※3)社の iPad の初期導入から運用支援までを一貫して担っています。こうした ICT インフラの整備により、各拠点のフューチャークラスルームにおける授業実践に学習端末が自然に取り入れられ、個別最適な学びと協働的な学びの実現が進んでいます。

両者について

【内田洋行について】

内田洋行は、1998 年に教育総合研究所を設立、大学や経済産業省、総務省や文部科学省での様々な受託事業、全国学力・学習状況調査の委託事業も行い、そこから得た知見の普及活動をしています。

タブレットやクラウドコンピューティングの普及を背景に、次世代の学習環境のあり方を提案する未来の教室「フューチャークラスルーム[®]」のコンセプトを開発し、2010 年より現在では全国の小中高大で約 1,000 校以上に導入されています。また、2025 年の国際的な学力調査 PISA や、日本の文部科学省の CBT システム「MEXCBT」で使われるプラットフォーム「TAO」の開発元であるルクセンブルクの OAT 社を子会社化するなど、教育データの活用も進めています。

未来の教室 FUTURE CLASS ROOM - ショールーム | 内田洋行

【福岡教育大学について】

福岡教育大学は、「生涯にわたり学び続ける有為な教育者を養成し、九州・沖縄地方ひいては我が国の持続的な発展に寄与する」ことを理念とする九州地区で唯一の教員養成大学です。教育の理論と実践の融合を重視し、附属学校・園の連携や地域協働を通じて、実践力・人間力・課題解決力を備えた教育者の育成に力を注いでいます。2012 年に教育総合研究所を設立、教員養成機能の充実、現職教員の再教育・継続教育への貢献や地域の教育・文化の発展への貢献を通じて、教員養成と教育研究のさらなる高度化に取り組んでいます。

- ・大学設立 1949 年(設置時名称「福岡学芸大学」、1873 年設立 学科取調所が前身)
- ・所在地 福岡県宗像市 ・学生数 2,567 名(2025 年 5 月現在)

国立大学法人 福岡教育大学 | University of Teacher Education Fukuoka.

(※1)「FutureClassRoom」「FutureClassRoomLaboratory」は内田洋行の登録商標です。

(※2)「Chromebook」は、Google LLC の商標または登録商標です。

(※3)iPad は米国および他の国々で登録された Apple Inc.の商標です。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社内田洋行 広報課 深澤琴絵・松永裕香
TEL. 03(3555)4072 FAX. 03(3555)4620